

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	井原あゆみ園		公表日 2026年3月31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		・安全に配慮できるよう子どもの人数や活動に合わせて目の届く空間で行っております。	・今後もスペースの有効活用を心がけていきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		・国の基準を守り人員配置を行っております。	・今後も必要に応じてサポートできる配置体制を行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		・活動の内容や流れが理解できるようイラストや手本を用いて情報伝達の工夫を行っております。活動によって部屋を分けるなど配慮しています。	・引き続き子どもたちが分かりやすくかつ過ごしやすい構造化された環境を目指します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		・活動終了後ごとにアルコール消毒を行っております。	・引き続き環境整備に努めてまいります。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		・リラックスエリアを設け、状況に応じて環境の選択ができるようにしています。	・引き続き環境の配慮ができるよう工夫してまいります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		・支援内容が支援者同士で共有し目標設定や振り返りの時間を設けています。	・事業所全体での意見の共有が行いやすい体制を図ります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・評価表の結果をもとに、保護者の意見や思いを受け職員間で話し合い改善につなげています。	・職員全体で保護者のニーズを把握し、引き続き改善に向けて努めていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		・事業所間でのミーティングを毎日設け、お子様の情報を共有しています。	・引き続きより良い支援ができるよう職員全体で話していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	・現在第三者評価は行っておりません。	・必要に応じて検討いたします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		・事業所内での研修を定期的で開催したり必要な研修に参加しながら支援の向上を図っています。	・引き続き積極的に研修に参加しよりよい支援の向上を図ります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		・支援の5領域を包括的に捉え支援プログラムを作成し、HPIにて公表しております。	・引き続きより良い支援ができるよう努めてまいります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		・保護者の方とお子様のニーズをアセスメントしニーズの背景や評価を踏まえて個別支援計画を作成しております。	・引き続きよりよい支援ができるよう努めてまいります。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		・担当職員を軸に全職員が共通理解を持った上で作成しています。	・話し合いの機会をつくりながら支援の方向を共通理解しながら最善の考慮で作成できるようにしていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		・事前の話し合いをしながら関わりの統一を図っています。	・全職員で計画が共有できるよう話し合いの時間を設け共通理解できるようにしていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		・日々の行動に観察や保護者からの聞き取りをもとに行っています。	・引き続きよりよい支援ができるよう努めてまいります。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		・児童発達支援ガイドラインに沿ってお子様のニーズに合わせた支援計画の立案・実行が行えるようにしています。	・引き続きお子様の発達状況を踏まえた上で必要な支援内容を組み込んでいきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		・打ち合わせを行い様々な意見を反映させながらプログラムの立案を工夫しています。	・引き続き話し合いを持ちながらプログラムの立案を行います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		・内容を振り返りながら様々な領域から経験を広げていけるよう工夫しています。	・固定化が必要な内容は意図的に行い楽しく活動できるよう工夫してまいります。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		・基本は集団活動を中心に取り組んでいます。内容によっては、個別活動を取り入れ個々に合わせた支援ができるようにしています。	・今後もお子様の個別支援計画に沿った支援に努めます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		・毎朝、打ち合わせを行い情報の共有や、分担確認を行っています。	・今後も綿密な打ち合わせを実地し支援に活かしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		・療育終了後に必ず振り返り保護者と話した内容などを共有しています。	・支援者間で積極的に振り返りが行いやすい環境設定を行います。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		・療育後5領域に分けての支援記録を残しています。	・引き続き記録を行い達成度に反映できるようにしていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		・支援計画の更新時やその他必要に応じてモニタリングの実施を行っています。	・職員で情報を共有し、立案に参画し適切な見直しができるように工夫します。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		・相談支援事業所と連携をとり主任指導員を中心に参加しています。	・主任職員と合わせて担当職員も参加できるようにしていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		・必要に応じて通学校や関係機関との連携を行っています。	・事業所内で情報を共有し、お子様の課題に向き合える方向を増やしていけるようにします。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		・所属している保育園、幼稚園と情報を共有できるよう訪問をしたり連絡を取り合っています。	・すべての並行園との情報共有ができていません。引き続き並行利用先・移行先でもお子様が安心して過ごせるよう情報共有を図ってまいります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。			・支援連携票を作成し、小学校と連携を取り情報共有を行っています。	・引き続き連携を図りながらスムーズな移行ができるよう努めます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	※	※		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	※	※		
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	※	※		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		・研修への参加、アドバイスや助言をいただける機会を設けています。	・今後も連携を取りながら研修に参加したりスキルアップの向上を図ります。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	1	・イベントに参加することで他の保育園児や幼稚園児との交流を持つことができています。	・今は回数が少ないです。工夫できるように対応します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4		・行事や懇談後等お子様の様子を聞き成長や課題を伝え共通理解できるようにしています。	・保護者の方の了承を得て職員での共有をし、課題の共通理解を図っていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	・ペアレントトレーニング等の家族支援プログラムは現在紹介できておりませんが、アドバイザーの方をお招きして育児などの相談できる場を設けています。	・研修の紹介を随時掲示しております。ご覧ください。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		・契約時に説明を行っております。利用者負担額に関しては毎年周知していただけるよう書面で配布をさせていただいています。	・事業所内に掲示しております、ご覧ください。不明な点がありましたらお知らせください。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		・相談支援員と連携しながらサービスの計画を参考にしています。また、面談の中で思いや願い意向を確認しています。	・職員間で共有し確認ができるよう朝礼や会議で伝えていきます。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		・保護者との面談を通して説明し同意を得るようにしています。	・引き続きより良い支援に努めてまいります。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		・保護者からの相談にはどの職員も迅速に対応できるようになっております。	・情報については許可をいただいて情報の共有をさせていただき適切な支援に反映させていきます。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1	・年に1回は茶話会を開催し保護者の方の悩みを話せる場を設定しています。また、日々の療育にも親子でできる活動を設けています。きょうだい同士の交流は現在行っておりません。	・今後も体的に開催し保護者同士の交流ができる機会をつくります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		・苦情を迅速かつ適切に対応できるようマニュアルを作成し閲覧できるようになっております。	・閲覧場所の位置を認識できるよう検討します。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		・園だよりでプログラムの内容を伝えます。また、HPへも発信し情報共有ができるようにしております。	・よりスムーズな発信ができるよう検討します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		・個人情報の取り扱いについては全職員で共通理解を図り細心の注意を図っています。	・今後も漏洩等のないよう気を付けてまいります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		・一人ひとりの発達の特徴に合った支援をしています。保護者の方へは文書とともに口頭か説明を心がけています。	・よりスムーズな発信ができるよう検討します。に情報伝達ができるよう検討中です。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	・地域の方にボランティアに来ていただき交流を図っています。	・今後も地域の方と交流をしながら開かれた関係に慣れるように努めてまいります。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		・マニュアルは保護者の方が見ることができるよう部屋に設置しております。訓練は様々な発生を想定し毎月行っております。	・保護者の方への伝達が不十分のようです。その都度のお知らせに加え分かりやすい掲示の仕方を工夫します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		・事業継続計画（BCP）を作成しております。法人全体でも訓練を行い備えています。	・事業継続計画（BCP）を作成しております。法人全体でも訓練を行い備えていきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		・療育開始の時保護者の方と面談で確認をしています。	・今後も日々の体調の状態を共有し把握しながら進めてまいります。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		・契約時確認をしています。クッキング等随時食品をお伝えし再度確認が取れるようにしています。	・再度確認をして安全に気を付けて活動ができるようにします。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		・安全計画を作成しています。日々安全に十分配慮して療育を行っております。	・今後も毎月安全確認を行い安全に配慮された療育に努めます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		・緊急時にスムーズに連絡がとれるよう複数の連絡先の確認をしています。引き渡し訓練の実施も行っております。	・安全計画についての保護者の方への周知ができていません。伝達方法を工夫していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		・ヒヤリハットを共有し安全に留意して再発防止に向けて繰り返し意識できるよう努めてまいります。	・些細なことでも共有することで危険な箇所への意識につながっていくようにします。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		・日々子どもの権利について理解を深めるとともに定期的な研修を受けました。	・職員全員の意識が高まっていけるよう今後も研修を行います。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		・個別支援計画への記載をしています。現在対象のお子様はおられません。	・引き続き利用開始時の重要事項説明書による口頭での伝達をしていきます。	